

未来に使える抗菌薬を残すため、今、みんなができること

公衆衛生委員会 藤原 孝子

AMRとは感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。抗菌薬は文字通り細菌に有効なのであってウイルスには効きません。まず細菌とウイルスの違いを見てみましょう。

細菌	ウイルス
人間と同じ生物	生物ではない
自分の力で増える	他の生物の細胞に侵入してコピーを増やす
1 μm	20~300nm (1000nm=1 μm)
光学顕微鏡で観察できる	電子顕微鏡で観察する
肺炎、中耳炎、膀胱炎等の原因になる (ウイルスが原因のこともある)	風邪、インフルエンザ、コロナ、風疹等の原因になる

我々が「菌」と呼んでいるのは細菌や真菌などに分類されるものです。有害なものもありますが役に立つものもあります。上の表のように細菌とウイルスは大きさ、体のつくり、増え方などが違う全く異なる生き物です。



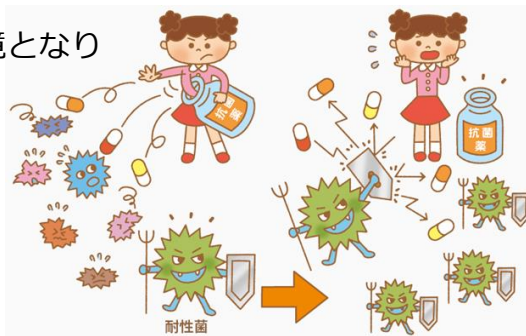
「抗菌薬」は「細菌」に対抗するために作られたくすりです。風邪の原因はウイルスです。抗菌薬は効きません！！

私たちの体の中には無数の常在菌が共生して健康を保っています。常在菌の中には抗生剤の利かない薬剤耐性菌がわずかながらいることがあります。病気になった時に抗生剤を服用することで原因菌は排除されますが常在菌も排除され薬剤耐性菌が残ることがあります。他の菌がないので薬剤耐性菌にとっては棲みやすい環境となり増えることができます。

薬剤耐性菌を増やさないために私たちができることは

- ① 風邪に抗菌薬は効かないということを理解する。
- ② 抗菌薬を人にあげない。
- ③ 抗菌薬は残さずに飲み切る。
- ④ 抗菌薬は途中でやめない。
- ⑤ 自己判断しない。

以上のことを守ってください。



薬剤耐性とワンヘルス

ワンヘルスとは人の健康を守るために動物や環境にも目を配って取り組もうという考え方です。

抗菌薬は人間だけではなく畜産業、水産業、農業などの幅広い分野で用いられています。

動物に抗菌薬を投与すると巡り巡って人の健康に影響を及ぼしかねません。

そこで、様々な国が畜産で使う抗菌薬を制限するなどの対策を行うようになっていきます。

また、そういった家畜の排せつ物に薬剤耐性菌が含まれていると水や農作物を汚染することがあります。調理が不十分だと食卓に上ってしまう可能性もあります。

しかし、人以外の分野はまだ研究が十分進んでおらず、幅広い取り組みを通じた対策が求められます。このようにAMR対策はまさにワンヘルスの考え方で取り組む必要があるのです。未来のためにAMR対策に取り組んでみましょう。

